

# 寅さん歩 その19

## バーチャルウォークで

### 聖火を新国立競技場へ-17



平野 武宏

FWAホームページの「YR・四季の道」バーチャルウォーク コーナーに八柳修之さんのバーチャルウォーク（国内版） 歩いて健康バーチャルウォークのすすめ「沖縄から新国立競技場まで東京オリンピック2020の聖火コース（仮想）1685kmを2020年7月までに歩いてみませんか」が掲載されました。

かつては平野寅次郎の名で映画の寅さんのように全国のウォーキング大会を歩き、世界最大のウォーキング大会 オランダ国際フォーデーズマーチ（4日間で120km）を完歩しましたが、2018年1月に坐骨神経痛を発症し、足の痛みで自由に歩けなくなりました。治療やリハビリを重ね、現在は8~10km程度の散歩まで可能に回復しましたが、歩けない時は例会にも参加出来ず、悶々としていました。こんな時の光明がこのバーチャルウォークの提案でした。バーチャルウォークはリハビリの散歩の距離を累計してバーチャルコースのゴールに向かう、すごろくのようなもので、「ゴールするまでは健康でいなければ」との目標を持つ前向きな気持ちにさせる取り組みです。

先の長いゴールまで歩けるかの不安もありますが、その時は**駕籠に乗って**（ウォーキングの隠語で交通機関を利用）聖火を新国立競技場へ届けようと気楽に考えました。歩く地域について学びながら思いを巡らすのも楽しいですよ。寅次郎は歩きながら、昔、ウォーキングで訪れて通過した県の思い出や、映画「男はつらいよ」で寅さんが通過した県でマドンナと、どんな恋をしていたのかをお話したいと思います。

2018年（平成30年）10月1日沖縄県辺戸岬をスタートした聖火は沖縄県那覇市から鹿児島県、宮崎県、大分県、福岡県、山口県、広島県、岡山県、兵庫県、大阪府、京都府、滋賀県、三重県、愛知県、静岡県から2019年（令和元年）11月9日現在、箱根宿（スタートから1547km地点）に到着しました。

今後は天下の険の箱根を越え、東海道を進み、寅次郎の生まれ育った故郷の藤澤宿へ向かいます。藤澤宿では実家の銘酒「**メ**（独り占め）」を昔の仲間達と飲み、長旅の疲れを癒します。寅次郎の生家は藤澤宿の本陣近くの「牧野屋」という酒屋でした。

隣は旅籠の「小松屋」で、「小松屋」のご主人は使用人の飯盛り女を手厚く葬ったと後世に言われている人です。

「牧野屋」の跡地はマンションと本町郵便局になっていますが、「小松屋」は現在も同じ場所で子孫の方がラーメン店を開業しています。

## 〔箱根宿～藤澤宿〕

1547km～1595Km



写真上左は広重の東海道五十三次の浮世絵の箱根宿、右は藤澤宿で江ノ島が描かれています。

寅次郎、神奈川県は県内すべての市町村をFWA及びKWA（神奈川県ウォーキング協会）の例会で歩きました。オールジャパンウォーキングカップの公式大会は横浜市と小田原市で開催されており、参加しました。

小田原大会は1999年（平成11年）の第1回からKWAスタッフとして大会のコース運営に参加しました。

小田原市は会社生活で11年間関わりのあった地です。寅次郎の実家の家紋は小田原北条の「三つ鱗」、ご先祖様は北条家傍系の武士で北条姓を名乗り、小机城にいて、小田原城が秀吉に攻められたので、ご本家の応援に駆けつける途中の藤沢で小田原城の落城を知り、武士をやめ、藤澤の大庭辺りに土着したとのこと。東海道が整備されて、現在の藤沢市本町1丁目の街道筋に出てきて酒屋を始めたようです。北条家を興した北条早雲は油売りから家系図を盗んだと言われる下剋上時代の人なので、どこまで本当の話なのかわかりませんが・・・

2000年（平成12年）11月開催の城下町小田原ツーデーマーチの第一日目は太閤・一夜城コースでスタート・ゴールは小田原城内の銅門（あかがねもん）内（写真右）で、鎧姿の武士のほら貝の合図で城門を開けてスタートします。



箱根湯本早雲山まで行き、最後は石垣山一夜城が最大の難所です。第二日目は「尊徳(二宮金次郎)富士見コース」で飯泉観音から金次郎が幼い頃、酒匂川の土手に植えた松を見ながら尊徳記念館を訪問します。

他には箱根旧街道を小田原城まで下るコースや真鶴半島を一周するコースもあります。JRで小田原まで戻り、小田原城にゴールします。写真右は大会会場に現れた寅さんのそっくりさんとのツーショットの若き日の寅次郎です。



映画の寅さんは神奈川県に2回足を踏み入れています。いずれも鎌倉です。1982年(昭和57年)12月公開の第29作「男はつらいよ 寅次郎 あじさいの歌」では京都の高名な陶芸家の家で働いていて出会ったかがり(いしだあゆみ)が再婚の夢に破れ、失意のまま故郷の丹後へ戻ります。心配して丹後を訪ねた寅さん、最終の船に乗り遅れ、かがりの家に泊まります。子供を寝かせた、かがりと二人きりで酒を飲み、あかりが来ても酔って寝たふり、眠れぬ夜を過ごして別れます。恋の病で柴又に戻った寅さんにかがりが友人と柴又に来て「鎌倉のあじさい寺で待つ」とのつけ文を渡します。心細い寅さん、満男を連れて行きます。「恋は体でぶつかれ」との陶芸家の言葉を実践したかがりですが、旅先とは違う寅さんに失意。満男の話では「寅さん、帰りの電車で泣いていた」とか。でも笑いを誘うシーンの連続で幕。



1995年12月公開の第47作「男はつらいよ 拝啓車寅次郎様」のラストシーンで鎌倉を訪れています。琵琶湖畔で足を怪我した美人カメラマン宮典子(かたせ梨乃)を助けます。柴又にお礼に来た典子に会えなかった寅さん、満男の運転で典子の住む鎌倉まで行きますが、家の前で典子が家族と車に乗る姿を見守る失意の寂しげな寅さんです。寅さんは独身の美人にしか恋をしません。帰りは江ノ電鎌倉高校前駅から藤沢駅に出て、旅に出ています。



今回は バーチャルウォークで聖火を新国立競技場へ-18 です。

平野 寅次郎 拝